

自然との共生 母校で訴え 滝川高 酪農学園大教授が講演

【滝川】酪農学園大（江別）の金子正美教授（環境共生学）が15日、道新環境出前講座として母校の滝川高で自然との共生について講演した。道新野生物基金などが主催した。マレーシアに約30年通っている金子教授は、回国で植林が進むアブラヤシから



母校の生徒にマレーシアの自然環境について話す金子教授

取れるパーム油が、菓子や洗剤の原材料に使われていることを紹介。アブラヤシ生産が広がる一方で、個体数が減るオランウータンの生息地である森林が狭まっているとし、「コンビニなどで気軽に買えるものが自然環境に影響を与えている」と訴えた。同講座の本年度の開催は

空知管内では同高のみ。理数科の1年生36人が金子教授の話に耳を傾けた。

（坂口光悦）